

中学校

平成 11 年 度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

平成11年度

教育研究員名簿（特別活動）

| 分科会名 | 区市町村名 | 学 校 名 | 氏 名 |
|-----------------------|-------|-------------|-----------|
| 第 一 分 科 会 | 大 田 | 大森第十中学校 | ○ 柏 一 郎 |
| | 中 野 | 第 七 中 学 校 | 小 野 博 志 |
| | 荒 川 | 第 三 中 学 校 | 都 所 直 樹 |
| | 板 橋 | 志村第二中学校 | 新 井 博 幸 |
| | 青 梅 | 霞 台 中 学 校 | 平 尚 己 |
| | 府 中 | 浅 間 中 学 校 | 島 崎 博 |
| | 小 金 井 | 小金井第一中学校 | 峯 岸 佳 子 |
| 第 二 分 科 会 | 千 代 田 | 麴 町 中 学 校 | 関 淳 子 |
| | 世 田 谷 | 梅 丘 中 学 校 | 川 田 保 子 |
| | 葛 飾 | 金 町 中 学 校 | ◎ 杉 山 直 之 |
| | 保 谷 | ひばりが丘中学校 | 土 田 弘 明 |
| | 多 摩 | 東 愛 宕 中 学 校 | 伊 東 純 |
| | 三 宅 | 坪 田 中 学 校 | 桑 原 俊 雪 |

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 教育庁指導部指導企画課指導主事 小 林 福太郎
 教育庁指導部中学校教育指導課指導主事 千 野 和 子

研究主題

生徒が主体的に創造力を発揮し「生きる力」をはぐくむ特別活動の工夫

目 次

| | | |
|-----|--|----|
| I | 主題設定の理由 | 2 |
| II | 第1分科会「生徒の創意が生きる学級活動の工夫」 | |
| 1 | 副主題設定の理由 | 2 |
| 2 | 研究の内容 | |
| (1) | 研究構想図 | 3 |
| (2) | 生徒の現状と教員側の現状と分析 | 4 |
| (3) | 授業研究の実践と検証 | |
| | 授業実践1「人間関係を深めるために（S中）」についての学級活動 | 5 |
| | 授業実践2「学校行事を利用して人間関係を深める（K中）」 | 8 |
| | 授業案3「学級・学校生活の中でよりよい人間関係を作るための試み」（N中） | 10 |
| 3 | 研究のまとめと今後の課題 | 13 |
| III | 第2分科会「生徒の興味・関心に応じた主体的な生徒会活動の工夫」 | |
| 1 | 副主題設定の理由 | 14 |
| 2 | 研究の内容 | |
| (1) | 研究構想図 | 14 |
| (2) | 学校及び生徒会活動に対する生徒の意識調査と分析 | 15 |
| (3) | 生徒会活動におけるボランティア活動の展開についての工夫 | 17 |
| (4) | 活動の実践事例 | |
| | 実践事例1 ボランティア活動の場をふやす ボランティア委員会の取り組み（H中） | 19 |
| | 実践事例2 K養護学校との交流を通じたボランティア活動（U中） | 21 |
| | 実践事例3 学校行事として行っているボランティア活動に 生徒会がかかわった事例（T中） | 23 |
| 3 | 研究のまとめと今後の課題 | 24 |

I 主題設定の理由

21世紀を担う子どもたちに求められているものに「生きる力」が上げられている。近年、国際化、情報化、科学技術の発展、高齢化、少子化等社会の状況は、様々な面で大きく変化している。

子どもたちは、その取り巻く環境の変化にさまざまに影響を受け、社会体験や生活体験の不足と見られる実状がある。そのため学校生活において、集団の一員としての自覚を深め、好ましい人間関係、基本的なモラルや社会生活上のルールの習得等を目指すことが大切である。豊かな人間関係や連帯感をもつことのできる体験活動を学校生活の中で充実させたり、地域の人々との交流を深めていくことは生徒が主体的に創造力を発揮する基盤となると考える。

学校の主体は生徒であり、その個性は多様であることを踏まえ、学級活動の中で基盤をつくり、さまざまなかかわりの中から、「生きる力」をはぐくみたいと考えた。

そこで、本研究は、「生徒の創意が生きる学級活動の工夫」と「生徒の興味関心に応じた主体的な生徒会活動の工夫」を副主題として、生徒の学校生活の基盤である学級の中で信頼関係をはぐくみ、生徒会活動において地域との交流を深めることにより、生き生きと活動できる指導の工夫、改善をねらいとして主題を設定した。

II 第1分科会

1 副主題 「生徒の創意が生きる学級活動の工夫」

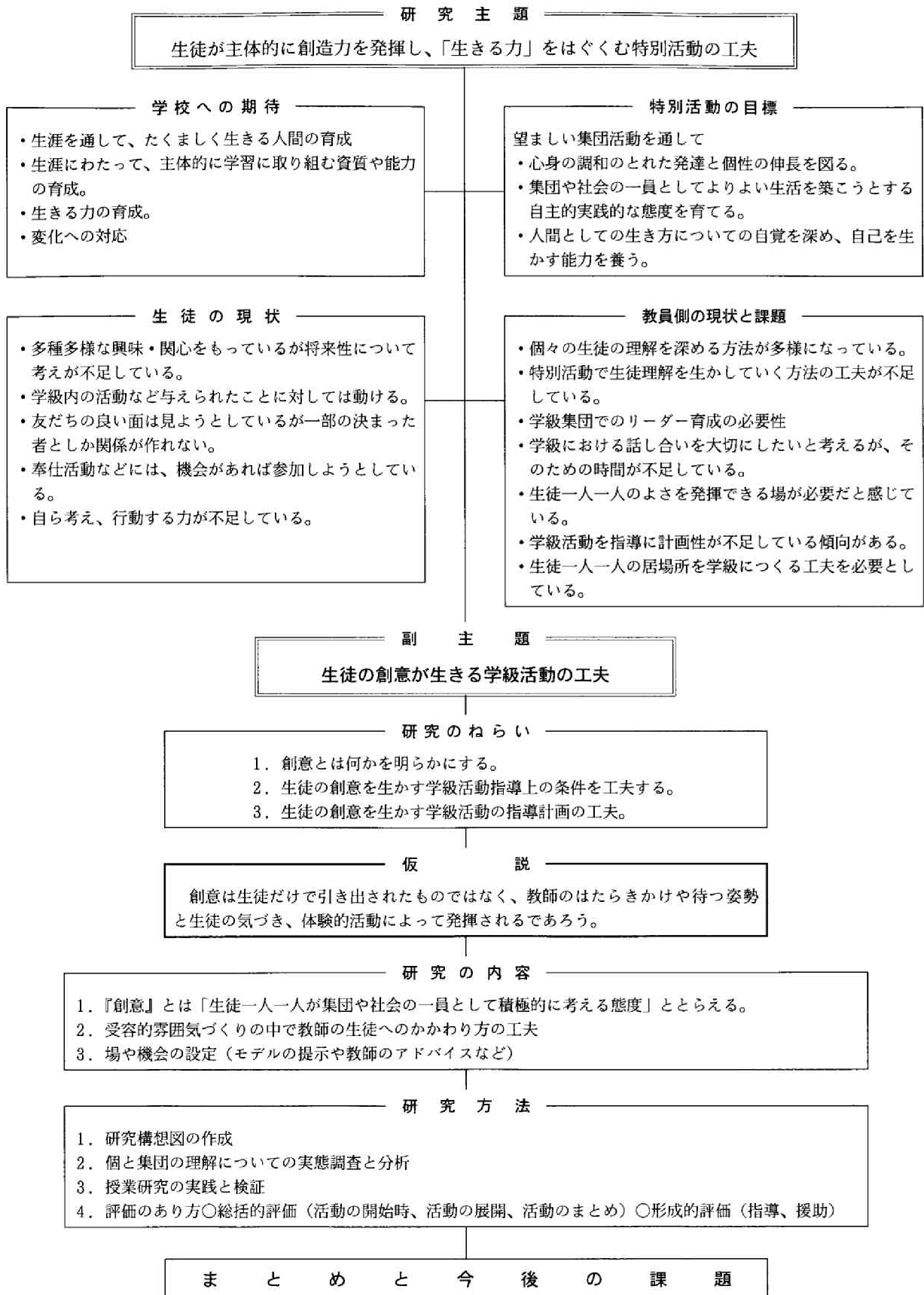
学習指導要領（平成10年12月告示）の中で、「選択教科の拡大」「総合的な学習の時間」が教育課程編成において示されている。生徒の興味関心を重視し、学級というわくを越えて異年齢の集団で学習していく形が多くとられるようになる。学級単位での活動は、今まで以上に社会性や人間性を学ぶ原点をとって振り返り、指導を工夫・充実させていく必要がある。

また、不登校の生徒が増加している現状から考え、生徒一人一人が居場所を学級の中につくりだし、魅力ある学級づくりを進めていくための指導を実践することが大切である。そのために、生徒の創意を発揮できるよう受容的な雰囲気を作る指導と、生徒が自発的、自治的な活動を発揮できるように導くとともに、教師の「待つ姿勢」を重視したい。すべての生徒を多面的にとらえ、学級の中での「心の居場所」を確保していくことが、これからの学級活動には必要である。

従って本研究では、「創意が生きる」ということについて、学級の生徒が信頼関係をはぐくむことが、生徒一人一人の創意を発揮する基盤となると考えた。教師の受容的な姿勢やはたらきかけによって、学級内や学校生活で起こるであろうさまざまな課題についても、集団の一員や社会の一員として積極的に考え実践していく態度が養われるであろうと考え、副主題とした。

1. 研究内容

(1) 研究構想図



(2) 生徒の現状と教育側の現状と課題の分析

平成14年度施行の学習指導要領を視野に入れた副主題設定を考察してみた。その要素となる「学校への期待」「特別活動の目標」「生徒の現状」「教員側の現状と課題」を十分に討論し、再度確認する必要性を認め、主題と副主題の整合性を高めるよう検討した。

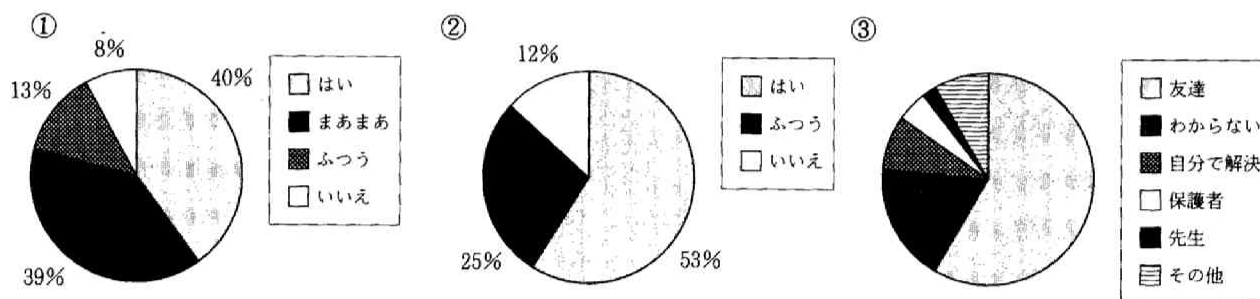
- 「学校への期待」は中央教育審議会の答申を受け、社会や地域、家庭との連携をより深めるものにとらえ、生涯にわたって学習する態度の育成。不易なものとして流行をしっかりと認識することと考えた。
- 「特別活動の目標」は学習指導要領の目標をそのまま研究構想図の要素としてとり入れた。
- 「生徒の現状」は学級活動の中でどのような対応が望まれるのかを明確にするため次のようなアンケートを行った。

- ①あなたは、学級の活動に進んで取り組んでいますか。(はい・まあまあ・ふつう・いいえ)
- ②あなたは、学級の中で仲間のよいところを見つけるよう意識していますか。
(はい・ふつう・いいえ)
- ③あなたは、学級の中で困った時どうしますか。
- ④あなたが、自らすすんでやってみたいことは何ですか。
- ⑤あなたは、積極的にボランティア活動に参加していますか。

<ねらい>

- ① 「自ら課題を発見し、課題を解決する能力の育成」に対応する資質を問うことをねらいとした。
- ② 不登校が増加傾向にあること、お互いの個性を認めるなど、学級に受容的な雰囲気醸成する生徒一人一人の資質を問うことをねらいとした。
- ③ 課題解決の方策をどのように学級活動の中で生かせるかをねらいとした。
- ④ 生徒の興味・関心を学級活動の中で生かせる題材づくりの発想の材料となるものをねらいとした。
- ⑤ ボランティア活動を、道徳、総合的な学習の時間、特別活動を中心としたあらゆる場面で取り上げるよう重視されたことを受けて、学級活動での意識を調べることをねらいとした。

<回答> ※調査対象は7校233名



- ④ 1位は部活で11%、後は多岐にわたった。⑤ およそ半数以上が何らかの形で参加していた。
- 「教員側の現状と課題」は研究員が所属する学年教員に記述式でアンケートを行った。その結果、ほぼ共通の現状分析と課題確認を行うことができた。

(3) 授業研究の実践と検証

①「人間関係を深めるために」についての学級活動

ア 検証授業1 (S中)

ア) 指導計画

(i) 題材名 第1学年「人間関係を深めるために」

— (2) 自己表現力をつける —

(ii) 題材設定の理由

平成14年度施行の新学習指導要領の特別活動において、「好ましい人間関係の醸成」「基本的モラルや社会生活のルールの習得」「協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的態度の育成」「ガイダンス機能の充実」等が示されている。また、具体的事項として学級活動における生徒の自発的、自治的な活動の推進と人間としての生き方の指導等の充実等が示されている。現在、中学校においては、不登校、いじめ問題、校内暴力や非行の問題など様々な問題が現れている。それは、学校教育の在り方に関わる問題であると同時に生徒たちを取り巻く社会環境、家庭環境などの変化と深くかかわり、生徒が共通に直面する課題として、人間関係の希薄化や自己の喪失といった状況がある。

学級活動において、今後ますます人間的なふれあいの場、生徒一人一人の居場所づくりが強く求められる。その中で、生徒一人一人が創意を発揮し、主体的活動をするには、他者と異なる部分を認め、共感し、自分を表現する力の育成を目指した指導に重点を置く必要があると考え、題材を設定した。

(iii) 指導のねらい

いくつかの感情を非言語的表現で相手に伝えることを通して、自分の感情を伝えることを体験し、各自の表現力を高めるようにする。

(iv) 指導の過程

- ①自分のよさを見つける
- ②自分のよさを表現する (本時)
- ③他の人を理解する
- ④自分も相手も大切に話す話し方をする

(v) 本時の活動のテーマ「自己表現力をつけよう」

(vi) 活動のねらい

- ①自分の感情を相手に表現できるか
- ②相手の感情表現を受け止めることができるか
- ③相手の話を真剣に聞くことができるか

(vii) 本時の展開 (資料1参照)

(viii) 評価の観点

- ①人とやりとりする際の表現方法を理解できたか
- ②自分の生活の中で自己表現する意欲がもてたか

(イ) 検証授業の中にみられる課題

(i) 事前の準備はほぼ予定通り行うことができ、10月12日5校時の検証授業では、生徒はのびのびと自主的、自発的に活動に参加した。活動のねらいはおおむね実現できたと考える。しかし、研究協議の中で、以下のことが課題として指摘された。

- ③ 教具の工夫
- ⑥ 教師主導型で、教師が話しすぎているか
- ⑦ 教師の働きかけや待つ姿勢はうまくできていたか
- ⑧ 「考えてみようシート」を今後どのように生かしていくか
- ⑨ 生徒が自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決したか

(資料1) 学級活動案

| | 指導事項 | 学習内容・活動 | 指導の留意点 | 評価の観点 |
|-------|--|--|--|---|
| 指導の開始 | 授業の紹介 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回授業で学んだことを確認する。 ・ 授業のねらいを伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の流れを生徒に知らせる。 ・ 板書する。 「感情を表現しよう」 ・ 本時のねらいがわかるように説明する。 | |
| 活動の展開 | 感情について考える。 握手で感情を表現する。 表情で表現する。 声で表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなが知っている「感情」を発表してもらおう。 ・ 4つの感情の内の一つを選び「握手」だけで伝える。 ・ グループで伝わってきた感情を発表してもらおう。 ・ むかし話「桃太郎」の冒頭部分を先ほどの4つの感情の中から一つ選び、感情を込めて読む。聞き役は目を閉じて相手の声に意識を集中させ、伝わってきた感情を発表してもらおう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表してもらった中から4つぐらいの感情を取り上げる。 ・ 生徒に、自分の手に注意を集中させる。(顔を隠す教具用意) ・ 桃太郎のプリントを用意しておく。 ・ 声の調子や、抑揚を変えることで、感情が表現できることを話す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の発表を真剣に聞いたか。 |

| | | | | |
|--------|-----|---|--|--|
| 活動のまとめ | まとめ | ・今日の授業で気づいたこと、感じたこと、これからの自分の生活に生かせそうと思うことを記入する。 | | |
|--------|-----|---|--|--|

(ウ) まとめ

(i) 「考えてみよう」シートの結果から (学級の人数31名)

| | そう思う | ややそう思う | いえない どちらとも | いえない どちらとも | そう思う | |
|--------------------------|-------------------|------------------|-----------------|----------------|----------------|-----------------------------|
| 「感情」を恥ずかしがらずに表現できた | 全14 男10 女4 | 全10 男3 女7 | 全4 男3 女1 | 全3 男0 女3 | 全0 男0 女0 | 「感情」を表現することが、恥ずかしかった |
| 相手の感情表現をしっかりと受け止めることができた | 全7 男4 女3 | 全17 男9 女8 | 全6 男2 女4 | 全1 男1 女0 | 全0 男0 女0 | 相手の感情表現をしっかりと受け止めることができなかった |
| 自信をもって授業に参加することができた | 全13 男11 女2 | 全10 男2 女8 | 全6 男2 女4 | 全2 男1 女1 | 全0 男0 女0 | 授業のとき不安だった |
| 自分に正直にみんなと接することができた | 全12 男9 女3 | 全5 男1 女4 | 全13 男5 女8 | 全1 男1 女0 | 全0 男0 女0 | 自分に正直になれなかった |
| 相手の話を真剣に聞くことができた | 全11 男4 女7 | 全13 男10 女3 | 全5 男1 女4 | 全2 男1 女1 | 全0 男0 女0 | 相手の話を真剣に聞くことができなかった |
| 授業に楽しく参加することができた | 全28 男14 女14 | 全1 男0 女1 | 全1 男1 女0 | 全1 男1 女0 | 全0 男0 女0 | 授業はつまらなかった |

今日の授業で、何か話したいことや意見・感想・質問などがありますか？どんなことでもかまいませんから、自由に書いてみよう。

＜生徒の言葉＞

- 相手に感情を伝えるのは恥ずかしいけど、伝わったときうれしかった。
- みんな受け取り方が違うので誤解の原因になってしまったと思った。
- やはり体の一部で感情を表すのは難しかった。感情は体全体で表した方がいいと思った。

(ii) アンケート集計の結果から

多くの生徒が授業に積極的に参加でき、感情の表現方法やそれを受けとめる難しさや、大切なことを理解することはできたようだった。しかし、今後の生活の中で、他人と協調すること、学級生活上の諸問題を協力しあって解決しようとする際、自分の意見を発表するなど、今後のあり方まで、この授業で深めることができたと思われる。

イ 検証授業 2 (K中)

今回は11月に行われた音楽祭の後に授業を行った。音楽祭の練習や本番での活動を思い起こし友だちのよいところを見つけようという授業である。

(ア) 指導計画

(i) 題材名 学級内の人間関係を深める

(ii) 題材の流れ

- (a) 自分を知る。
- (b) 自分を表現する。
- (c) 自分を理解することと他の人を理解する。(本時は3時間のうちの2時間目)

(iii) 本時の指導のねらい

- 自分や級友に対してのいろいろなよさを人から聞くことにより自分が気づかなかった面を理解する。
- 肯定的な言葉を使って表現することにより、学級の信頼関係を育む。
- 将来、社会に出たときのよりよい人間関係の形成に役立てる。

(iv) 本時までの取り組み

- 音楽祭の翌日のアンケートをとる。(資料1参照)
- 学級のリーダーがそのアンケートの集計をして肯定的な言葉を出す。

(v) 本時の展開 (資料2参照)

(イ) 検証授業の中に見られる課題

事前の準備はほぼ予定通りに行うことができた。11月11日の検証授業については、生徒は班長のリーダーシップのもと全員が和やかな雰囲気の中で活発に活動し、本時のねらいに近づくことができた。しかし、研究協議の中で、以下の点が課題として指摘された。

- (i) 本時の〈展開の4〉で席を班の形にしておくと生徒は先にメンバーと相談してしまい、ワークシートの記入時の話し合いがスムーズにいかない。

→展開の5で席を班の形にした。

- (ii) ワークシートに書き込むのに時間がかかるので工夫が必要である。
 →キーワードのみを書かせるようにした。
 →活動場面集は生徒一人ひとりに当てはまるようにするので、ことばが多くなるが見やすいように工夫する。
- (iii) 教師主導のところと生徒主体の部分を区別する。
 →進行の区切りのところで教師が時間的な配分を指示する。

| | 活 動 内 容 | 指 導 の 留 意 点 | 評 価 の 観 点 |
|--------|---|---|---|
| 活動の開始 | 1. 前回までの流れを確認 2. 本時の内容説明 ・班員の良い面を見つける。 ・気づかなかった面を知る。 | ・黒板を使ってねらいを明らかにする。 | |
| 活動の展開 | 3. (ワークシートの配布) (資料2参照) 4. 活躍場面集の中から班員に当てはまるものを選びワークシートに記入する。 5. 班の中で選んだ言葉をそれぞれ出し合い、気づいていない部分があればワークシートに記入する。 6. ワークシートをもとに一人一人のよさを認め合う。 | ・班の代表にわたすようにする。 ・音楽祭の場面を思い出させるような助言をする。 ・番号でなくキーワードで書かせる。 ・班の形にする。 ・班長が司会するように助言する。 ・自分との違いに気づかせる。 ・まず、教員側から具体的な例を出し、その後班の中で生徒同士で例を出し合う。 ・相手に対する言葉に配慮する。 | ・積極的にかつ真剣に考えているか。 ・班長の司会により円滑に発表ができたか。 ・活発な意見交換がされたか。 |
| 活動のまとめ | 7. 班長が班の意見、内容を発表する。 8. 人間としてよいところを見つけることについて担任のまとめを行う。 9. 「考えてみようシート」に記入。 | ・担任が活発な話し合いが行われていた班の紹介等を行う。 | |

- 評価
- ・班員のよいところを積極的に探そうとしたか。
 - ・自分を含め班員の気づかなかったよい一面を知ることができたか。

(ウ) まとめ

生徒からは「みんなの知らない面がわかってよかった。」また、授業中にはお互いのよいところを伝えながら照れたりする場面もみられた。以上の結果からほとんどの生徒が今回の授業で仲間のよいところを見つけたり、気づいたりすることの大切さ感じられ受容的雰囲気をつくるきっかけができたようにみられる。

(i) 考えてみようシートの集計結果からの考察

集計の結果から見ると、ほとんどの生徒が本時の指導のねらいである仲間のよいところを積極的に見つけようとし、新たに仲間のよいところを知ることができたといえる。

また、感想からもあるように仲間のよいところを知ることが良いことだ(=大切だ)という気持ちが生徒の多くに芽生えている。

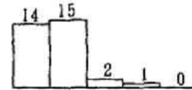
(ii) 今回の授業の成果

前回の検証授業では自分の感情を表現することを中心に行ったが、今回の授業は、さらに進めて人間関係を深めることを目的にした。授業のなかで肯定的なことばを出し合うことにより、自分が認められているという気持ちを体験をし、級友のよい面を認めていくことができた。これらが自分の意見をしっかり言うことができたり、授業を楽しく行うことを始めてできることにつながるのではないか。後日、担任と生徒との会話の中で級友のよいところに気づいたことが話題にのぼったことがあった。級友のよいところを認める気持ちが生徒の中で増えており、他の授業にもよい影響を及ぼしているのではないかと考える。

(資料1)

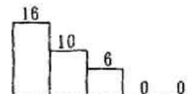
や ど や
 や ち や
 そ ら そ そ
 う う う う
 で で で で
 あ あ あ あ
 る る い る

1. 仲間の良いところを積極的に見つけることができた。



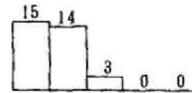
仲間の良いところを積極的に見つけることができなかった

2. 今まで気付かなかった仲間の一面を知ることができた。



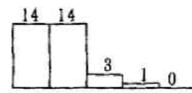
今日の授業で新しい仲間の一面を知ることが無かった。

3. 自分の意見をしっかり言うことができた。



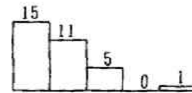
自分の意見を言うことができなかった。

4. 仲間の意見を真剣に聞くことができた。



仲間の意見を真剣に聞くことができなかった。

5. 今日の授業を楽しく行うことができた。



今日の授業はつまらなかった。



(iii) 検証授業案（学校生活の中でよりよい人間関係を作るための試み）

前回のK中の検証授業案を改定したものをを用いて、N中で再度検証授業を試みる。

学校行事（音楽祭）の場面だけでなく、学校内の生活全般を通して、生徒の良い面を引き出すことにより、生徒相互のより良い人間関係を作る。これにより学級内の信頼関係を形成することができると思われる。

ワークシートに記入する時間を短縮させるため、キーワードとなる言葉を記入させる。

(iv) 本時の指導のねらい

- ・学校生活を通して、自分や級友のいろいろな良さを知ることにより、気づかなかった面を理解する。
- ・肯定的な言葉により、学級内の和やかな人間関係をはぐくむ。
- ・将来、社会に出た時のよりよい人間関係の形成に役立てる。

本時の展開

| | 活 動 内 容 | 指 導 の 留 意 点 | 評 価 の 観 点 |
|--------|---|--|---|
| 活動の開始 | 1. 前回までの流れを確認 2. 本時の内容の説明 ・班員の良い面を見つける。 ・気づかなかった面を知る。 | ・黒板を使い本時のねらいを明らかにする。 | |
| 活動の展開 | 3. (ワークシートを配布) 4. 活動場面集の中から班員に当てはまるものを選びワークシートにキーワードを記入する。 5. 班長が司会をしながら、班の中で選んだ言葉をそれぞれ出し合い、その人について自分が記入していない言葉があれば、それをワークシートに記入する。 6. ワークシートから一人ひとりの特に良かったことを確かめ合い発表する。 | ・時間の目安を伝えておく。 ・生活面・学習面での場면을助言する。 ・キーワードを直接書かせるようにする。 ・司会進行に配慮する。 ・座席を班の形にする。 ・自分との違いに気づかせる。 ・進み具合をみて助言する。 ・相手に対する言葉に配慮する。 ・委員会活動、学校行事などさまざまな面を助言する。 ・出来るだけ具体的な例を出させる。 | ・積極的にかつ真剣に考えているか。 ・班長の司会により円滑に発表が出来たか。 ・活発な意見交換がされたか。 |
| 活動のまとめ | 7. これからの学校生活の中で良い面をどう伸ばすか考え合い、いくつかの班より発表する。 8. 担任から本時の意義についてのまとめを行う。 9. 「考えてみようシート」を配布し記入する。 | ・発言が活発に出るように助言する。 ・座席をもどす。 | |

- 評価
- ・班員の良いところを積極的に探そうとしたか。
 - ・自分を含め班員の気づかなかった良い面を知ることが出来たか

アンケート

1. 学校生活のいろいろな場面でがんばっている人をあげてください

2. あげた人はどのような場面でがんばっていたか、具体的に書いてください

3. これからの学校生活でどういう点をがんばりたいと思うか書いてください

(v) N中における検証授業において、予想される生徒の様子や成果

- 一つの学校行事の場面だけでなく、学校全般を通して使用することができる。
- 班長を中心にして生徒自身が、主体的に授業に参加し取り組める。
- 生徒が肯定的な言葉を使うことにより、和やかな雰囲気が出てくる。これが、より良い人間関係の形成につながる。
- 学級活動を通して、生徒自身や級友のいろいろな良い面を発見したり認めることができる。
- 学級内で生徒間に、受容的な雰囲気ができれば学級内での生徒の居場所ができ、「生きる力」をはぐくむことになる。
- 「ふり返りシート」を活用することにより、生徒自身が活動の意義を確認できる。

活躍場面集 (例)

1年 組 番 氏名

行事面

1. 運動会とき積極的に頑張っていた
2. 合唱祭の実行委員として頑張っていた
3. 合唱祭の練習のとき、クラスをまとめてくれた
4. 合唱祭のパートリーダーとして頑張った
5. 合唱祭の指揮者として頑張った

部活動

6. 部活動に積極的に参加している
7. 部活動をかかげできている
8. 部活動でみんなをまとめている

委員会・生徒会活動

9. 委員会の仕事をよくやっている
10. 学級の代表として頑張っている

学級内の活動

11. 授業のわからない所を教えてくれる
12. クラスの仕事を進んでしてくれる
13. そうじをいつもきちんとやっている
14. みんなに呼びかけをしていた
15. 授業中積極的に発言している
16. 優しく人のことをよく考えている
17. 體札の時姿勢がよい
18. 係の仕事を良くやっている

下線をワークシートに記入する

ワークシート

| 班員の名前 | 左の中からあなたが思う班員の良いところを選んで言葉で書いてください (キーワードで) | あなたが気づかなかった班員の一面 (キーワードで) |
|-------|--|---------------------------|
| 自分 | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

3 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

今回の研究では、学級活動の信頼関係をはぐくむことを取り上げ、そこに生徒自身の創意が生きるように研究することをテーマにした。フォーマルな集団である学級のもつ意義は大きいと考え、個性を重視することを念頭に置き、互いを認めあうことのできる豊かな心をはぐくむ学級活動を大切にしていくことは、学校生活の基本である。そのため、互いのよさや自らのことが気付くように授業研究を行った。

① 検証授業 1

- (1) 班長会を組織し、自治的活動及び、司会としての方法を生徒自身が身につけていく必要があるためその指導を必要とする。
- (2) 授業のねらいを理解し、教師の願いと生徒の願いを共有することが大切である。そのために教師の視線を、生徒の目の高さにすることが大切である。
- (3) 教師は4月当初より受容的な雰囲気作りを意識して行う必要がある。
- (4) その上で教師の「待つ姿勢」を大切にして生徒の話し合い活動が流れるように見守ることも大切である。
- (5) 感情をテーマにした授業（検証授業1）があるが、特別活動としての人間関係に視点をあてた教師の指導・助言が大切であり、「待つ姿勢」との兼ね合いが難しかった。それは、生徒と教師の信頼関係により培うものである。

② 検証授業 2

- (1) 検証授業1の反省を生かし、「待つ姿勢」を大切にしたい。
- (2) 生徒の互いのよさを発見し、認めあう内容にした。
- (3) 授業のねらいを教師のことばだけでなく、黒板を利用しテーマをあげたり、教具（マグネットシート等）を工夫したりして、視覚的にイメージさせる方が効果的である。
- (4) 趣旨説明は導入として生徒全員の意識を高める必要から、座席はすべて教師の方に向けた後グループ編成とした。
- (5) グループによる話し合い活動の後に互いの良さを認め合うだけでなく、いかに発展させていくかが重要であり、課題である。
- (6) 教師は日常の生徒の活動を把握しておくことが、助言の際に生きる言葉となることがわかった。

(2) 今後の課題

学級活動において「生きる力」をはぐくむことについては、学級全体の信頼関係を深めていくことが重要であり、学級活動を展開をする際、生徒相互の関係を改めて見直すなど工夫を重ねていくことが必要である。今回の授業だけでなく、学級活動として生徒の創意が生きる活動について、学校行事と学級活動のかかわりや、一年間を通して、学級活動における生徒間のかかわりになどついて、今後も研究を深め、生徒の創意が生きる学級づくりを目指したい。

Ⅲ 第2分科会

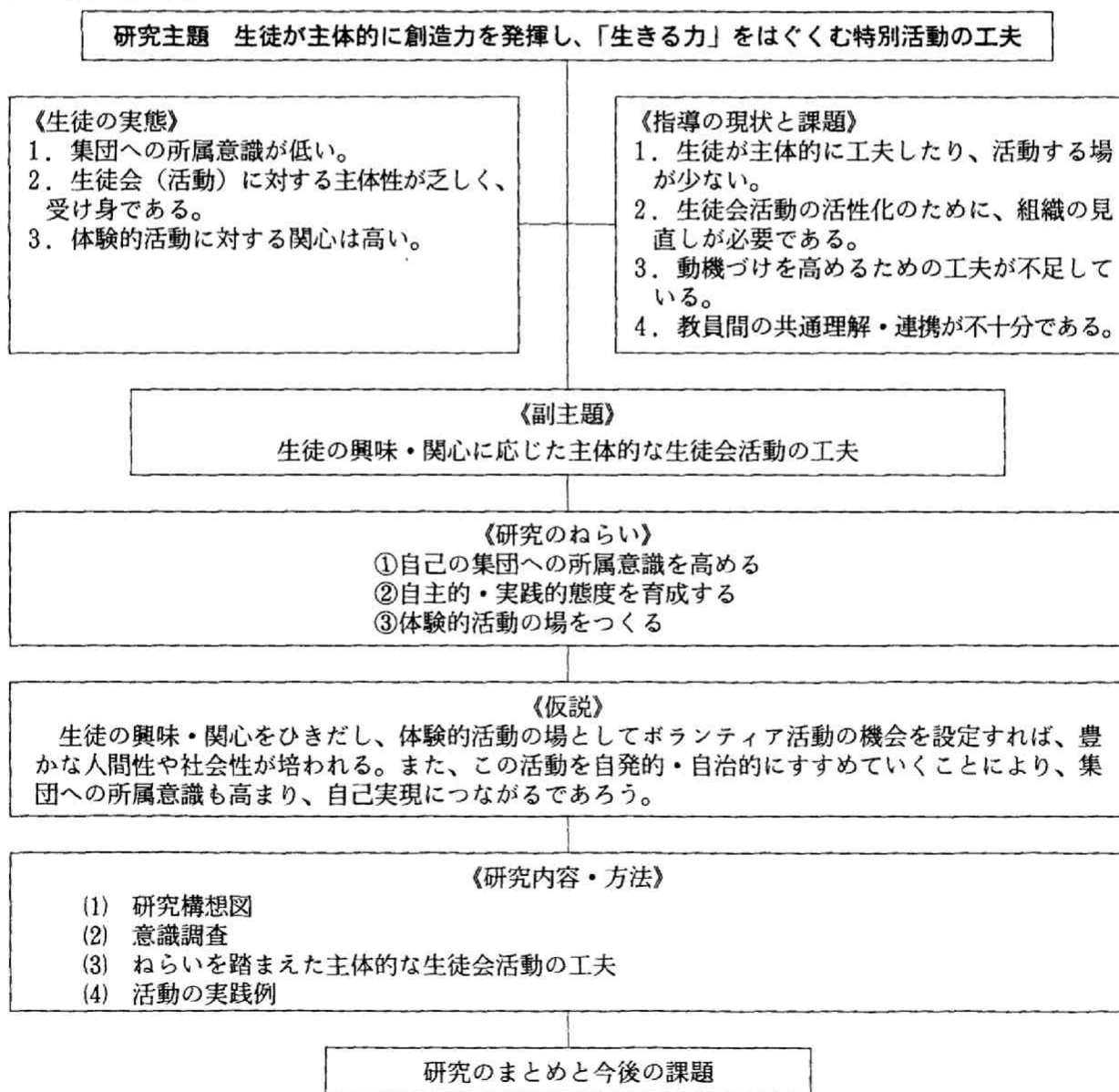
副主題「生徒の興味・関心に応じた主体的な生徒会活動の工夫」

1 副主題設定の理由

自然体験や社会体験などに対する生徒の関心は高いものの、自分の所属する集団への帰属意識や体験活動の不足が指摘されている。また、新学習指導要領では、生徒会活動について、地域等における社会貢献や社会参加の活動を一層重視し、活動内容としては新たに「ボランティア活動など」を積極的に取り入れることが強調されている。これは生徒会としてのボランティア活動はもとより、地域の人々との交流や学校間の交流などを進め、自主的、実践的な態度や社会性の育成を図ることを重視するものである。そこで本研究では、社会性や豊かな人間性を培い、自己実現に向かって「生きる力」をはぐくむことをねらいとして、生徒の興味・関心に応じた主体的な活動、特にボランティア活動の実践に重点を置き、上記の副主題を設定した。

2 研究の内容

(1) 研究構想図



(2) 学校および生徒会活動に対する生徒の意識調査と分析

意識調査に先がけて、生徒会役員にアンケート調査を行った。そこには、学校生活を向上させるための組織としての生徒会の重要性への認識と自分の学校に対する誇りや自負心があふれていた。しかし「生徒会活動＝生徒会役員の活動」となっている現状がある。

そこで、生徒会活動を全生徒の活動としていくために6校の各学年1クラス（18クラス、539人）について意識調査を行った。この調査で、生徒会役員と一般生徒との間に意識の違いはあるのか、生徒にどのように働きかけていけばよいのかを探った。

① 質問内容と結果

質問 1 あなたは学校のどこが好きですか。（どんなところに誇りを持っていますか。）
（記入式回答）

| 校舎 | 雰囲気 | 部活動 | 活動 | 校歌 | その他 |
|--------------------|-----------------------------|------------------|---------------------------|-----------------|----------------------|
| 校舎の作りが良い等 21.5% | 落ち着いている等 問題が無い等 16.5% | 校舎がきれい等 20.8% | 部活動が盛ん 行事が盛ん等 15.2% | 校歌がよい等 16.5% | 家に近い すべて等 9.0% |

質問 2 学校にどんな特色があるといいと思いますか。（選択肢複数回答）

| | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 生徒会活動が盛ん 21.3% | 部活動が盛ん 45.1% | その他 12.4% |
|-------------------|-----------------|--------------|

- ・その他（個性的な生徒が多い、アメリカとの交換授業、クーラーがある、授業のレベルが高い、良い先生がいる、校歌を大きな声で歌う、夢がある、施設がきれい等）

質問 3 ずばりききます。学校に「生徒会」という組織は必要ですか。（選択肢回答）

| | | | |
|----------------|---------------|----------------|-------------|
| 必要である 55.5% | 必要でない 8.5% | わからない 32.5% | 無回答 3.5% |
|----------------|---------------|----------------|-------------|

質問 4 3で答えた理由を教えてください。なぜ、そう思いますか。（記述式回答）

《必要である》

- ・生徒の中心になってまとめてくれる人が必要だから。
- ・いろいろな行事を企画してくれて学校が楽しく、良い雰囲気になるから。
- ・学校を変えていけないから。

《必要でない》

- ・生徒会にどんな意味があるのかわからないし、なくても困らないから。
- ・活動しているのか、していないのかわからないから。
- ・決まったことは職員会が承認しないと決まらないので、先生が決めるのと同じだから。

《わからないから》

- ・生徒会のことがよくわからないから。
- ・なんか、生徒会の中だけで楽しんでいるような気がするから。
- ・必要なときとそうでないときがあるから。

質問 5 生徒会活動の中で特に関心があるものに○をつけてください。(いくつ○をつけてもかまいません)

| 生徒総会 | 役員選挙 | 委員会活動 | 生徒会行事 | 生徒会広報 | ボランティア活動 | 部活動 |
|-------|-------|-------|-------|-------|----------|-------|
| 24.7% | 14.7% | 21.0% | 49.1% | 15.8% | 12.4% | 41.7% |

質問 6 あなたが生徒会の一員としてやってみたいことはありますか。(記述式回答)

| 学校を過ごしやすくしたい | 行事・部活を新設する | ボランティア活動をする | 役員・企画の中心になる | 積極的に活動する | その他 | ない・無回答 |
|--------------|------------|-------------|-------------|----------|------|--------|
| 9.3% | 10.6% | 7.6% | 3.8% | 3.5% | 2.6% | 67.0% |

- ・その他(環境問題について考える、他校と交流したい、未成年の主張等)

質問 7 あなたは生徒会の一員として何ができますか。(記述式回答)

| 学校を過ごしやすくしたい | 行事・部活を新設する | ボランティア活動をする | 役員や企画の中心になる | 積極的に活動する | その他 | ない・無回答 |
|--------------|------------|-------------|-------------|----------|------|--------|
| 7.6% | 1.2% | 14.8% | 1.1% | 22.0% | 3.4% | 55.0% |

- ・その他(規則正しい生活をする、自分の意見を持つ、規則を守る、下級生に学校のことを教える、何かはできる、いろんなこと、など)

② 調査の結果の傾向と分析

「学校のどこが好きか(誇りを持っているか)」を問うことで学校への所属感をはかり、さらに「どんな特色があればいいか」を問い、学校生活への願いや集団を向上させようとする意識を確かめてみた。各学校の特色や発達段階によって違いはあったものの、予想以上に学校生活に対する意識は高かったが、生徒会活動に積極的に参加していこうとする生徒は少なく、生徒会の存在意義を認識していない生徒も少なくない。その一方で、生徒会行事やボランティア活動に対する関心が高いことがわかってきた。

つまり、生徒会活動に対する意識は低くても、みんなで何かをしていきたい、学校をもっと良くしていきたいと思っている生徒は多く見られる。生徒会活動に主体的にかかわっている役員の意識が高いように、生徒の横のつながりを重視した生徒会活動を展開できれば、生徒の意識は向上し、生徒会活動も活発化していくのではないかと考える。

また、ボランティア活動など、生徒の興味・関心に着目した主体的な活動を促進していけば、生徒会活動は生徒全体の活動に発展していくのではないかと考えられる。

(3) 生徒会活動におけるボランティア活動の展開についての工夫

ア 生徒会活動としてのボランティア活動の在り方

本分科会では、はじめにボランティア活動の意義や活動への期待を明らかにした。

- 地域社会の一員であることの自覚と支え合う社会の仕組みを考える。
- 社会への貢献だけでなく自分自身を高める。

次に、学級活動、生徒会活動、学校行事とボランティア活動の位置づけと関連を明確にした。

- 学級活動 …… ボランティア活動の意義の理解
- 生徒会活動 …… 社会参加の活動と自己実現力の育成
- 学校行事 …… 社会奉仕の精神を養う体験

学級活動でボランティア活動に対する意義が理解できた後、自主的に実践することで生徒会活動としてのボランティア活動につながる。さらに学校全体で自発的、自治的に行われることによって学校行事につながっていくと考えた。

「生きる力」とは何か。(本分科会の共通理解)

◎社会性

- ・コミュニケーション能力
- ・人間関係の構築、礼儀
- ・人間尊重の精神
- ・観察、理解、判断、表現の力
- ・情報収集能力

◎自己実現の力

- ・「enpower」
(力を付ける)
- ・自分の能力を発揮し、
人生設計をしていく姿勢
- ・自立心、生活能力

◎豊かな人間性

- ・コミュニケーション能力
- ・感受性
- ・自律心
- ・忍耐力(ねばり強さ)
- ・危機察知能力、判断力
- ・想像力、創造力

イ 生徒会としてのボランティア活動の現状と課題

ボランティア活動に取り組んでいる多くの学校では、一部の有志生徒が参加しているにとどまり、全校生徒の実践力や社会性を高めるといった目的が十分に果たしていない現状がある。そこで、ボランティア活動の在り方を見つめなおす必要があると考えた。

- 学級活動、生徒会広報活動を通じての生徒の意識づけ

ボランティア活動を自主的に行う動機づけが必要である。学級活動としてボランティアの意義について考える時間をとること及び情報提供を行う。生徒会新聞や生徒朝会で実践事例を伝える。生徒会の活動方針を設定する際、意識調査や本部役員と生徒と十分な討議を行う。

- ボランティア活動を充実させるための組織的な工夫

活発に生徒会活動を行っている学校が新たな活動に取り組むことは負担が大きいため組織的な工夫が必要である。小規模化している学校については委員会組織の見直しから委員会措置が効果的である。K中学校では以前より、生徒会規約に「生徒会長の指名で選出される。」として、「事務局員」の項目があり、これを活用して本部役員と協力して広報活動など行う意欲のある生徒を募集し、ともに活動を行っていくこととした。このような「仲間づくり」を意識した組織改編が有効であると考えた。

- ボランティア活動を展開していく上での地域や教職員との連携

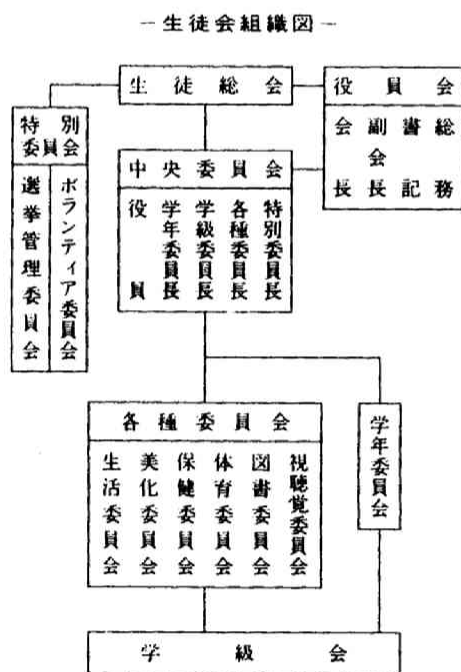
地域のボランティアセンターとの連携による情報収集が効果的である。また、教職員の協力体制を整えるために、校務分掌上の位置づけを明確にする必要がある。

＜実践例：H中 ボランティア（体験的）活動の場を増やすボランティア委員会の取り組み＞

これまでの本校でのボランティア活動は、生徒会本部役員を中心に企画運営され、それなりに成果をあげ意味ある活動が繰り返されてきた。しかし、学校行事に追われることの多い本部役員では、十分な話し合いをもったボランティア活動に限界があった。そこで、ボランティア活動を生徒会活動として、また体験的活動の場として今以上に広く発展させていくために、ボランティア活動を専門的に話し合い、企画運営する委員会を特別委員会の形で設立した。特別委員会の形で設立することによって、生徒は各種委員とも兼任でき、クラスの中で本当にボランティア活動に興味関心のある者が集められると考えられた。そして、クラスの中にボランティア委員がいることにより、委員を通して一人一人の意見を聞くことができる。また、クラスへの呼びかけもスムーズになり、学級、学年さらには学校全体と密接なつながりをもって、活動が活発化していくと考えられた。

本実践例は、以上のような考え方から、ボランティア委員会を中心としたボランティア活動の取り組みである。

① ボランティア委員会の位置づけ



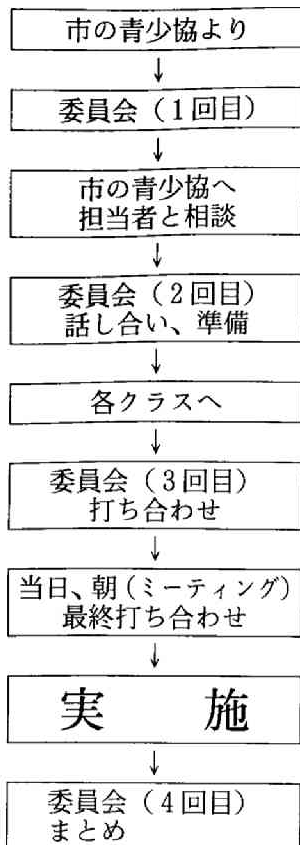
② 今年度の活動および活動計画

| | 学校行事 | ボランティアの活動内容 |
|-----|-------|--|
| 4月 | 入学式 | ボランティア委員会組織づくり。 |
| 5月 | | 緑の羽根募金活動。校内に収集ボックスの設置。 |
| 6月 | 運動会 | 運動会たれ幕の作成。運動会前美化活動の手伝い。 企画『南米援護ボランティア活動への協力』※1 (運動会当日) ※1保護者、地域に呼びかけて夏物衣類を集めて送る。 |
| 7月 | | 企画『一日福祉教室』(車椅子体験) |
| | 夏休み | 収集物(ヘルマーク、テレカ、使用済み切手)集計。 |
| 9月 | | クリーン作戦①(草むしり) |
| 10月 | 文化発表会 | 委員会の発表『ユニセフの活動』と『台湾震災の惨状』募金活動。 |
| 11月 | | 地域『第20回歩け歩け会』への協力。 |
| 12月 | | クリーン作戦②(落ち葉拾い)→鹿き芋大会 |
| 1月 | | 未定 |
| 2月 | | 未定 |
| 3月 | 卒業式 | クリーン作戦③(地域清掃) |

③ 一例 (『第20回歩け歩け会』への協力)

毎年11月に、本市では青少協主催の『歩け歩け会』が実施されている。この会では、中学生のボランティアを募集しているが、本校では昨年まで、生徒会本部役員を中心として数名参加している程度であった。

そこで、今年はボランティア委員会が窓口となって、広報活動等を活発にし、一人でも多くの人が進んで参加できるよう取り組みを開始した。



- ・『歩け歩け会』の案内と協力依頼を受ける。
- ・ボランティア委員会が中心となって活動していくことを確認する。
- ・具体的なボランティア活動（仕事）の内容の説明を受ける。
- ・本校のボランティア参加者の枠を20名分もらう。
- ・ボランティア活動（仕事）の内容等、共通理解をはかる。
- ・ポスターを貼る。「ボランティアだよりNo.7」を作成。
- ・「ボランティアだよりNo.7」で各クラスに参加者を呼びかける。
- ・参加希望者（18名中5名が委員）を交えての打ち合わせ。
- ・今回のボランティア活動の意義と参加する姿勢について話し合う。
- ・市の担当者の方々と参加者（5校；計45名）全員の打ち合わせ。
- ・班分けをし、仕事の分担を確認する。

- ・参加者全員の感想文より「ボランティアだよりNo.8」を書く。
- ・アンケートの集計。



(写真1) 全体ミーティング

(写真2) ボランティアの様子

| アンケート集計結果 | |
|---|--|
| ※対象：『歩け歩け会』参加者18名（3年...8名、2年...12名） | |
| 1 あなたにとってボランティアとは何ですか。 | 5 今回のボランティア（活動）をやったと思うことがありますか。 |
| <input type="radio"/> 人助け（人のためになること）。 9名 <input type="radio"/> 人と人のふれあい（絆を深める）。 3名 <input type="radio"/> 誰にでもやる気があればできること。 1名 <input type="radio"/> 心が成長できる場。 1名 <input type="radio"/> 簡単なお手伝い。 1名 | ある。 17名 <input type="radio"/> 「ご苦労様」「頑張って」「ありがとう」と声をかけてくれる。 5名 <input type="radio"/> 寒しくて、ためになった。 3名 <input type="radio"/> 知らない人でも、ちゃんと挨拶を交わしてくれる。 3名 <input type="radio"/> いろいろな人と話すことができた。 2名 <input type="radio"/> 人の笑顔 2名 <input type="radio"/> 充実感があった。 1名 <input type="radio"/> 友達が増えた。 1名 |
| 2 あなたが一人でできるボランティアとして、どんなことがありますか。 | 6 今回のボランティア（活動）を通して、あなた自身が変わったところがありますか。例えば、『ゴミを捨てなくなった』とか、『人に優しくなった』とか。 |
| <input type="radio"/> 地域清掃（ゴミ拾い）。 5名 <input type="radio"/> お年寄り、子供の世話（靴をゆするなど）。 4名 <input type="radio"/> 募金 3名 <input type="radio"/> リサイクル（エコロジー） 2名 <input type="radio"/> 困っている人を助ける 1名 <input type="radio"/> 目の不自由な人を誘導するなど。 1名 <input type="radio"/> 積極的にボランティア活動に参加する。 1名 | ない。 1名 ある。 13名 <input type="radio"/> きちっと（よく）挨拶をするようになった。 4名 <input type="radio"/> 明るくなった。 2名 <input type="radio"/> 人の気持ちを今まで以上に考えるようになった。 1名 <input type="radio"/> 物事の見方が変わった。 1名 <input type="radio"/> 人との接し方が変わった。 1名 <input type="radio"/> ゴミを捨てるようになった。 1名 <input type="radio"/> ボランティアの関心が高まった。 1名 <input type="radio"/> 心がスカットした。 1名 <input type="radio"/> 人に優しくなった。 1名 |
| 3 学校でまともなボランティア（活動）としては、どんなものがありますか。 | 7 あなたは、これからもボランティア（活動）に積極的に参加したいですか。 |
| <input type="radio"/> 『歩け歩け会』のお手伝い。 6名 <input type="radio"/> 募金活動（ユニセフ等） 4名 <input type="radio"/> 地域清掃（ゴミ拾い、草むしり等）。 3名 <input type="radio"/> 老人ホーム訪問。 3名 <input type="radio"/> 障害者の方々のお世話。 1名 <input type="radio"/> ベルマーク、テレカ等収集。 1名 | はい。 16名 <input type="radio"/> （人と人のふれあい等）楽しかったから。 6名 <input type="radio"/> 他の人に喜ばれること（人助け）をしたいから。 2名 <input type="radio"/> 人と人の絆を深めるため。 1名 <input type="radio"/> ボランティア活動に興味があるから。 1名 <input type="radio"/> 感謝の言葉が生まれてよかったと思わせるから。 1名 <input type="radio"/> やりがいがあるから。 1名 |
| 4 なぜ、今回『歩け歩け会』のボランティア活動に参加したのですか。 | いいえ。 2名 <input type="radio"/> 〇たまに参加するのならよい。 1名 |

実践例（U中学校・K養護学校との交流を通じたボランティア活動）

U中学校では、昭和53年に一部生徒のボランティア形式によるK養護学校との交流を開始し、今年で21年目を迎える。その間交流は学校行事や、生徒会行事に移行されるなど、その形式や規模を変えながら現在まで継続している。昭和61年から始まった、全員参加の車椅子体験教室によって、交流は生徒の意識にも根づいているものの、近年生徒会中央役員と有志による代表者交流会は参加者も少なくやや停滞気味である。

K養護学校との交流は、生徒自身も誇りと考えるU中学校の特色である。今年度は代表者交流会をより活発にするために、生徒会中央役員のみにも委ねられていた交流活動を、行事を通じた取り組みや教職員へのよびかけなどを行うことで、徐々に広げる工夫を試みた。その結果、代表者交流会への参加も増えつつある。

代表者交流会に有志参加した生徒の意識を探ることで、交流が生徒にもたらす変化や影響を明らかにするとともに、今後の交流の方向についても再検討したい。

1. 今年度のK養護学校との交流活動（*は今年度よりの試み）

| 月 | 交 流 内 容 | 参 加 者 |
|-------|---|---|
| 6月 | K養護学校体育祭の装飾作り* K養護学校体育祭見学 車椅子体験教室 | 1年生・美術部 生徒会中央役員・有志 《1年生全員》 |
| 7月 | 第1回代表者交流会 | 生徒会中央役員・広報委員・有志 |
| 10月 | 学芸発表会ポスターにK校祭の紹介* | 学芸発表会実行委員・有志 |
| 11月 | 学芸発表会にK養護学校生徒作品展示 学芸発表会で両校の交流のようすを紹介 K校祭にU中生徒作品展示 K校祭見学 第2回代表者交流会 | (K養護学校教員) 生徒会中央役員 学芸発表会実行委員・生徒会中央役員(生徒による展示準備*) 生徒会中央役員・有志 生徒会中央役員・有志 |
| (3学期) | K養護学校見学会*第3回交流会* | 生徒会中央役員・有志 |

2. 実践例 I（車椅子体験教室・6月18日）

- ① 事前指導 ・K養護学校の紹介（VTRおよびK養護学校の先生による）。
- ② 当日の活動・K養護学校体育館で車椅子体験教室。
 - 9：45 開会式
 - 10：00 クラスごと、さらに班ごとに分かれて車椅子の押し方を学ぶ。
(K養護学校生徒の車椅子を押して、平地・段差・スロープを体験する。また、自分たちも車椅子に乗ってみる。)
 - 10：50 閉会式で感想を発表し合う。
- ③ ま と め ・体験教室の感想を作文にまとめる。

3. 実践例Ⅱ（第2回代表者交流会・11月26日）

① 準備 ・交流会の内容を検討、K養護学校と打ち合わせ。

・朝会、生徒会だよりで有志参加者を募る。

② 当日の活動 ・K養護学校図書室および体育館で代表者交流会。

12:00 U中学校生が配膳を手伝い、一緒に給食をとる。（両校の生徒会中央役員8名ずつが参加。）

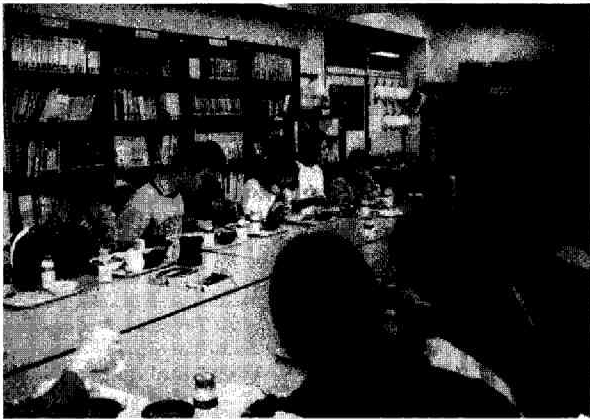
開会式（あいさつ、自己紹介）。

13:15 交流試合（ゴロバレー）。（U中学校側は、ここから有志も加わる。）

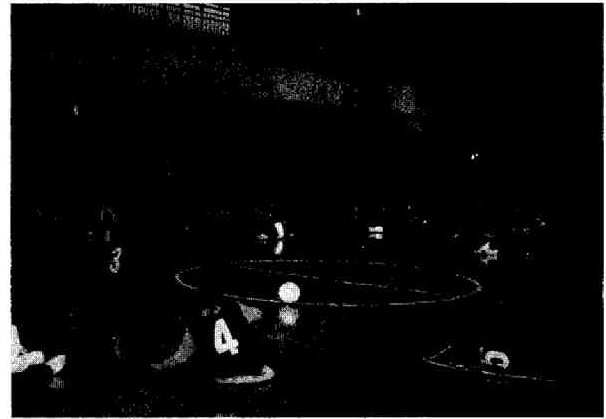
14:30 閉会式（歌、あいさつ）。

③ まとめ ・参加者にアンケートをとる。

・交流会のようすを生徒会だよりで紹介する。



（給食を食べながら自己紹介）



（ゴロバレーの交流試合）

（生徒会新聞：中央役員発行）

（生徒の感想：交流会後のアンケートより）

| | |
|--|---------------------------|
| | 〒114 12月 2日 発行：U中・中央役員 |
| <h2>平成11年度第2回 K校交流</h2> | |
| 11月26日(金)に平成11年度第2回K校交流が行われました。K校生と給食と一緒に食べた作り手館とゴロバレーのゲームをしました。ゴロバレーは意外と難しく、半買れるまで大変でした。とても楽しい時間を過ごすことができ、有意義な交流をすることができました。これからもう一層充実した交流にするために、次回はもっと沢山の友達に参加してもらえればうれしいです。 | |
| <h3>ゴロバレーの結果</h3> U中生惨敗0 1回戦 1対10 (K校勝ち) 2回戦 5対10 (K校勝ち) K校生圧勝! | |
| [U中中-A] 生徒会役員1人 その他に、バレー部・広報委員が交流に参加しました。 ※ゴロバレーとは、バレーボールをより簡単に楽しむようにした、スポーツの事。ルールは、ボールを手や足を使って転がして、相手の陣地のラインからボールを出します。バレーボールと同じで、3回を相手にかえします。 | |
| <h3>給食のメニュー</h3> スパゲティ・ナポリタン・味噌汁 えび＆コンサラダ・みかん・牛乳 | |

1. 今後も交流会に参加してみたいと思いますか？
 - ・はい 13人
 - ・いいえ 0人
2. それはなぜですか？
 - ・楽しかったから。おもしろかったから。 12人
 - ・友達になれるから。 3人
 - ・友達になったので、また会いたい。
 - ・交流会が好きだから。
3. 交流会に参加して気付いたことや参加する前と後で感じ方が変わったことはありますか？
 - ・参加する前は交流できるか心配だったけど、とても楽しくできた。
 - ・最初はドキドキしたけど、やっていくうちに楽しくなった。
 - ・ゴロバレーって何？って思ったけどやってみたら楽しかった。一緒にできてよかった。
 - ・K校の人達も僕らと何も違わなかった。
 - ・みんながんばっていると思う。
 - ・友達になれるか心配だったけど大丈夫でした。
 - ・今日来てよかった。

〈実践例〉：T中 学校行事として行っているボランティア活動に、生徒会がかかわった事例
 島しょに位置する本校は、全校生徒が34名の小規模校である。学校と地域のつながりは深く、あらゆる面で本校に期待が寄せられている。地域の人々は、本校のさまざまな活動に対して協力を惜しまず、また学校側も積極的に地域社会とかかわっている。その例として、地域とかかわるボランティア活動が多いことがあげられる。主なものを下に記してみたい。

1. 本校で実施しているボランティア活動の主なもの

- | | |
|---------------|---|
| (1) 空きびん回収 | …年に二度実施している。生徒が自分の住んでいる地区の各家庭を一軒ずつ回り、空きびんやアルミ缶を回収する。空きびんは、地域の商店に引き取っていただく。収益金は生徒会費に充てている。 |
| (2) 地区清掃 | …毎月一度実施している。学区内のごみを拾ったり、汚れている箇所の掃除をする。 |
| (3) 小中合同空き缶拾い | …年に一度、小学生と中学生と一緒に学区内の空き缶を拾って歩く。 |
| (4) アルミ缶片付け | …学校の敷地内にアルミ缶を捨てる場所があり、年に二度その片付けをする。 |
| (5) 敬老会の参加 | …地元の公民館で行う敬老会の舞台発表で、郷土芸能を披露する。お年寄りにたいへん喜ばれている。 |

上記の活動は、ほとんど学校が中心となって行っている。本校生徒の実態として、勤労意欲が高く、作業や労働をあまりいやがらずに一生懸命取り組むという点がある。実際、どのボランティア活動も、まじめによく参加している。とはいえ、主体性が乏しく、受け身的であることは否めない感があった。

そこで、(1)の空きびん回収という活動のなかで、生徒会が関与することにより、少しでも意欲の高まりがみられ、自主的・実践的な態度が育つのではないかと考えた。

2. 空きびん回収について

- (1) 目的
- ① 勤労体験学習の一環として、空きびん回収を行い、働くことの喜びを体得させ、ボランティア精神を培う。
 - ② 地区班活動を通して、地域の一員であるという自覚を育てる。
 - ③ この活動で得た資金を生徒会活動に充てることにより、生徒の励みとする。

(2) 当日の流れ

①各家庭からビン・缶を回収する

③店に搬入

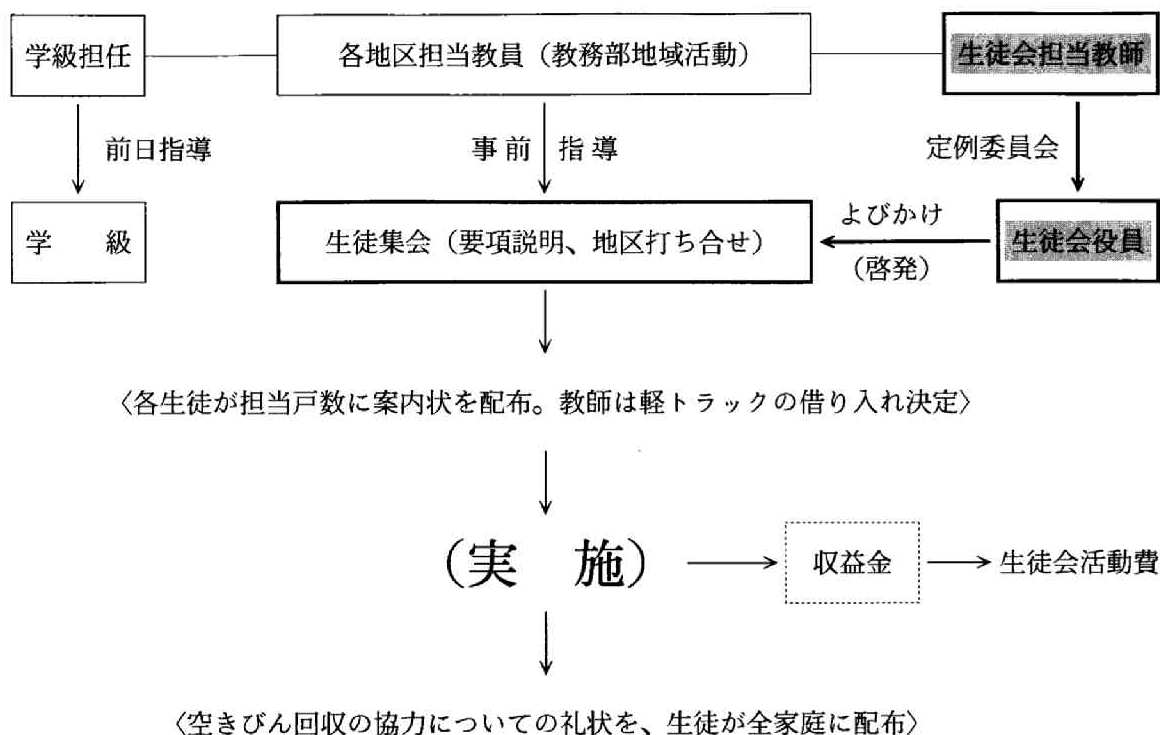
②ビンを洗浄し（軽く水洗い）、選別する

③ 汚れの激しいものは不燃物を扱っている焼却場へ



3. どのように展開したか

空きびん回収（勤労生産的行事）



4. 実践を通して

上の展開図のなかの太線の部分が、今回新たに取り組んだところである。かといって、特に大がかりなことを行ったわけではない。生徒集会のなかで、生徒会役員が全校生徒にむかってよびかけをただけのことである。つまり、伝統のある勤労生産・奉仕的な学校行事と、生徒会活動としてのボランティア活動につながりをもたせたにすぎない。ボランティア活動を自治的にすすめるための簡単な取り組みである。

今後、学校における社会体験の積極的導入がすすめられ、社会の一員としての自覚が肝要になる。本校の空きびん回収が、生徒にとって印象深い活動になっているということは、自主的な態度が育ち、ある程度、成就感が達成できたからだと考える。

ボランティアについてのアンケート 集計結果（一部抜粋） 対象 全校生徒34名

1. 学校でできるボランティアは（複数回答可）

・空きびん回収＝22名 ・地区清掃＝10名 ・アルミ缶片付け＝10名 ・共同募金＝3名 ・老人ホーム一日体験＝2名

2. ボランティアをやってよかったと思った時はありますか

・お礼を言われたとき＝9名 ・終わった後よかったと思う。さわやかな気持ちになる＝6名

・空きびん回収に行ったとき、お年寄りがよるこんでくれた＝3名 ・特にない＝2名

・空きびん回収は意外とおもしろい＝1名 ・郷土芸能でお年寄りが喜んでくれた＝1名

3 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本研究は、まず主題を受けて、生徒が主体的に創造力を発揮して取り組めることとは何かを考えた。聞き取りアンケートにより、意外にもボランティア活動に興味・関心が高いことがわかった。そこで、生徒会活動として、特にボランティア活動に重点を置き、社会性や豊かな人間性を培い、自己実現に向かって生きる力をはぐくむことをねらいとして、様々な実践を試みた。その際の留意点は、①生徒の動機付けを高めるための工夫、②充実した自発的活動が展開できるような組織の工夫、③地域との交流や教職員間の連携のあり方、の3点である。

その成果について、以下のように報告する。

①生徒の動機付けを高めるための工夫について

生徒の意欲を高めるためには、知識としてボランティア活動の意義を理解する学習も同時に進めるべきではあるが、車椅子やアイマスク体験などの体験的学習が大変有効である。

②充実した自発的活動が展開できるような組織の工夫について

ボランティアを広く進めていこうと専門的に考える委員会の設置等、組織を工夫することによって、学校・学年・学級といった集団としての活動がスムーズになり、日頃関心をあまり示さない生徒でも、その活動の場面に触れることが多くなった。

③地域との交流や教職員間の連携のあり方について

ボランティア・センターとの連携や地域住民の活動への協力を取り入れた、自発的なボランティア活動の展開により、生徒会活動に地域・社会との深いつながりが生まれ、生徒に地域・社会の一員であるという自覚が高まった。

以上のように、生徒会活動としてボランティア活動を展開することによって、生徒は社会性やコミュニケーション能力を身につけ、これらの体験が「生きる力」に結びつくと考えられる。

(2) 今後の課題

今回の研究において、その基盤に据えてきた仮説は、今後社会で求められる「生きる力」が、ボランティア活動を通じて、より培われていくということであった。ただし、現状のボランティア活動の実践やその段階は、それぞれの学校の特色・独自性、または地域性によって様々である。したがって、本研究は、生徒会活動として今後進められていくボランティア活動のほんの一例に過ぎない。しかし、共通の課題は以下の通りであった。

①生徒会として、自主的取り組みを重視するため、有志生徒が参加する形態をとるボランティア活動を、どのようにして全校生徒の活動として広めていくか。そのための広報活動と、学級活動・学校行事との関連をどうとらえるか。

②ボランティア活動の充実には、地域・社会との交流・連携が不可欠であり、近年地域のボランティア活動も組織的に充実してきている。この点については、まず教員理解が必要となる。

③ボランティア活動を、生徒の自発的なものとするためには、活動が十分に深化できるように学校体制を整える時間や活動に伴う費用の捻出など物理的な課題もある。これについては、校務分掌上の位置づけ等、各校の現状を踏まえた組織の改定も必要であろう。